



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月14日

上場会社名 株式会社うるる 上場取引所 東
 コード番号 3979 URL https://www.uluru.biz/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星 知也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 桶山 雄平 TEL 03(6221)3069
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	840	—	157	—	156	—	120	—
29年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 119百万円 (ー%) 29年3月期第2四半期 一百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	37.05	36.13
29年3月期第2四半期	—	—

(注) 当社は、第2四半期の業績開示を平成30年3月期より行っているため、平成29年3月期第2四半期の実績及び増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
30年3月期第2四半期	2,621		1,773		67.7
29年3月期	2,519		1,653		65.6

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 1,773百万円 29年3月期 1,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,169	26.0	505	109.2	504	134.8	350	44.8	108.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	3,241,100株	29年3月期	3,241,100株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	－株	29年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	3,241,100株	29年3月期2Q	－株

（注）当社は、第2四半期の業績開示を平成30年3月期より行っているため、平成29年3月期第2四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たったの注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。また、当社は平成29年11月22日に機関投資家・アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年9月30日)における我が国経済は、政府による経済政策や金融政策を背景に、雇用環境や企業業績の改善が見られる一方、英国のEU離脱や東アジア地域における地政学的リスクの影響により海外経済の不確実性が高まるなど、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、当社グループのビジネスの中核である、クラウドソーシングのクラウドワーカーを活用して生み出されたサービスを展開するCGS事業においては、官公庁等の入札情報を提供する入札情報速報サービス「NJS S(エヌジェス)」が業績を牽引しておりますが、国内情報サービス業の売上高規模は平成28年においては10兆9,930億円(前年比1.8%増加)と5年連続で成長を続けております(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」)。また、CGSのリソース供給源であるクラウドソーシングの市場規模は、矢野経済研究所「BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)市場の実態と展望 2016-2017」によると、平成28年度の流通金額規模(仕事依頼金額ベース)は前年比46.2%増の950億円となっており、平成32年度には2,950億円に達すると予測されています。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、CGS事業で展開する入札情報速報サービス「NJS S」の拡大、及び新規CGSの創出に継続して注力して参りました。また、CGSのリソース供給源である、クラウドソーシングサービス「シュフティ」のUI・UXの改善、そして企業のアウトソーシング・ニーズに対応するBPO事業については、将来の売上・利益につながる受注獲得のための営業活動に注力いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は840,871千円、営業利益は157,138千円、経常利益は156,739千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は120,089千円となりました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① CGS事業

CGS事業におきましては、業績を牽引する「NJS S」については、入札・落札案件情報を閲覧できるウェブサービスの販売高増加に加え、入札に関するサービス提供範囲の拡大のための、入札資格の管理支援サービスの提供が伸長しました。新規CGSの1つである「えんフォト」につきましても、順調に事業成長いたしました。そして、2017年5月にサービス提供を開始した新規CGSである、クラウドワーカーを活用したコール代行サービス「フレックスコール」の受注状況が順調に推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間におけるCGS事業の売上高は571,405千円となり、セグメント利益は320,940千円となりました。

② BPO事業

BPO事業におきましては、利益率の高い大口案件の獲得を行うための営業体制を整備し、同案件の受注獲得に注力してまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間におけるBPO事業の売上高は251,837千円となり、セグメント利益は16,373千円となりました。

③ クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業におきましては、登録クラウドワーカーが約36万人まで増加しました。また、CGS事業やBPO事業のプラットフォームとしての位置付けから、ユーザー利便性を高めるためのシステム改修を継続しております。この結果、当第2四半期連結累計期間におけるクラウドソーシング事業の売上高は17,628千円となり、セグメント損失は48,050千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産については、前連結会計年度末と比べ101,213千円増加し、2,621,207千円となりました。これは主に現金及び預金の増加127,495千円、売掛金の減少20,718千円によるものです。

負債については、前連結会計年度末と比べ18,561千円減少し、847,478千円となりました。これは主に前受金の増加103,882千円、未払法人税等の減少32,289千円、流動負債にかかるその他の減少79,377千円によるものです。

純資産については、前連結会計年度末と比べ119,775千円増加し、1,773,728千円となりました。これは主に利益剰余金の増加120,089千円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、平成29年5月12日に決算短信で公表しました内容に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,226,803	2,354,298
売掛金	93,243	72,525
仕掛品	1,819	9,620
その他	109,163	94,450
貸倒引当金	△1,132	△574
流動資産合計	2,429,898	2,530,319
固定資産		
有形固定資産	39,795	45,831
無形固定資産	6,024	5,145
投資その他の資産	44,275	39,910
固定資産合計	90,094	90,887
資産合計	2,519,993	2,621,207
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,716	43,718
1年内返済予定の長期借入金	16,668	13,847
未払法人税等	58,808	26,518
前受金	406,238	510,120
その他	327,636	248,258
流動負債合計	856,067	842,463
固定負債		
長期借入金	9,973	5,015
固定負債合計	9,973	5,015
負債合計	866,040	847,478
純資産の部		
株主資本		
資本金	944,157	944,157
資本剰余金	926,457	926,457
利益剰余金	△216,119	△96,030
株主資本合計	1,654,494	1,774,583
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△686	△1,008
その他の包括利益累計額合計	△686	△1,008
非支配株主持分	144	152
純資産合計	1,653,952	1,773,728
負債純資産合計	2,519,993	2,621,207

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	840,871
売上原価	238,808
売上総利益	602,063
販売費及び一般管理費	444,925
営業利益	157,138
営業外収益	
受取利息	20
ポイント収入額	305
その他	24
営業外収益合計	350
営業外費用	
支払利息	125
為替差損	623
営業外費用合計	749
経常利益	156,739
税金等調整前四半期純利益	156,739
法人税、住民税及び事業税	19,217
法人税等調整額	17,427
法人税等合計	36,644
四半期純利益	120,094
非支配株主に帰属する四半期純利益	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,089

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	120,094
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	△325
その他の包括利益合計	△325
四半期包括利益	119,769
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	119,767
非支配株主に係る四半期包括利益	2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	156,739
減価償却費	7,752
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△557
受取利息	△20
支払利息	125
売上債権の増減額(△は増加)	20,662
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,800
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,997
前受金の増減額(△は減少)	103,882
その他	△82,883
小計	194,903
利息の受取額	20
利息の支払額	△125
法人税等の支払額	△46,935
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,862
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△12,436
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,436
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△7,779
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,779
現金及び現金同等物に係る換算差額	△153
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	127,493
現金及び現金同等物の期首残高	2,201,786
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,329,280

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	CGS事業	BPO事業	クラウドソー シング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	571,405	251,837	17,628	840,871	—	840,871
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,124	5,338	965	16,429	△16,429	—
計	581,530	257,176	18,594	857,301	△16,429	840,871
セグメント利益又は損失(△)	320,940	16,373	△48,050	289,263	△132,125	157,138

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△132,125千円は、セグメント間取引消去126千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△132,252千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。